

慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）教授
 修了生・フォローアップ委員会委員長

伊東 研祐

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学南館 21007 号室

Tel. 03-5427-1331 (直通)

Fax 03-5427-1752 (共通)

E-mail ken-itoh@ls.keio.ac.jp

2008年9月23日(火)

2008年新司法試験の結果発表を踏まえて — 修了生諸君へのメッセージ —

I 慶應義塾大学法科大学院修了生の2008年新司法試験受験結果と、それに対するコメント

平成20年新司法試験法科大学院別合格者数等

法科大学院名	出願者数	受験者数	短答式合格者数	短答合格者数/受験者数 (%)	最終合格者/短答合格者 (%) & 順位	最終合格者数 & 順位	最終合格者/受験者数 (%) & 順位
一橋法科大学院	132	127	109	85.83	71.56 1	78 7	61.42 1
既修総数		93				65	69.89
平成17年度卒既修		1				1	100.00
平成18年度卒既修		25				19	52.00
平成19年度卒既修		67				51	76.12
未修総数		34				13	38.24
平成18年度卒未修		5				2	40.00
平成19年度卒未修		29				11	37.93
慶應義塾大法科大学院	320	292	257	88.01	64.20 2	165 3	56.51 2
既修総数		211				135	63.98
平成17年度卒既修		9				4	44.44
平成18年度卒既修		36				14	38.89
平成19年度卒既修		166				117	70.48
未修総数		81				30	37.04
平成18年度卒未修		17				7	41.18
平成19年度卒未修		64				23	35.94
中央法科大学院	397	352	312	88.64	62.82 5	196 2	55.68 3
既修総数		276				179	64.86
平成17年度卒既修		35				10	28.57
平成18年度卒既修		49				26	53.06
平成19年度卒既修		192				143	74.48
未修総数		76				17	22.37
平成18年度卒未修		31				5	16.13
平成19年度卒未修		45				12	26.67
神戸大法科大学院	142	128	111	86.72	63.06 4	70 8	54.69 4
既修総数		91				54	59.34
平成17年度卒既修		5				1	20.00
平成18年度卒既修		29				18	62.07
平成19年度卒既修		57				35	61.40
未修総数		37				16	43.24
平成18年度卒未修		8				5	62.50
平成19年度卒未修		29				11	37.93
東京法科大学院	404	366	312	85.25	64.10 3	200 1	54.64 5
既修総数		252				155	61.51
平成17年度卒既修		7				5	71.43
平成18年度卒既修		61				31	50.82
平成19年度卒既修		184				119	64.67
未修総数		114				45	39.47
平成18年度卒未修		42				14	33.33
平成19年度卒未修		72				31	43.06
首都大東京法科大学院	103	79	66	83.54	59.09 7	39 15	49.37 6
千葉大法科大学院	74	69	57	82.61	59.65 6	34 18	49.28 7
東北大法科大学院	141	127	105	82.68	56.19 8	59 9	46.46 8
愛知大法科大学院	55	35	29	82.86	55.17 9	16 30	45.71 9
上智大法科大学院	156	120	100	83.33	50.00 14	50 13	41.67 10
京大法科大学院	271	241	198	82.16	50.51 13	100 5	41.49 11
大阪市立大法科大学院	102	82	62	75.61	53.23 11	33 19	40.24 12
大阪大法科大学院	147	127	103	81.10	47.57 17	49 14	38.58 13
成蹊大法科大学院	67	45	38	84.44	44.74 20	17 29	37.78 14
早稲田大法科大学院	391	345	242	70.14	53.72 10	130 4	37.68 15
総数	7842	6261	4654			2065	32.98

(注) 受験者数には、途中欠席者23人を含む。

参考 2006年	2137	2091	1684	80.54	59.92	1009	48.25
参考 2007年	5401	4607	3479	75.52	53.20	1851	40.18
参考 2008年	7842	6261	4654	74.33	44.37	2065	32.98

各法科大学院が（基本法律科目及び法律実務基礎科目の内容的充実は勿論として）基礎法学・隣接科目や先端・展開科目に工夫を凝らして特徴あるカリキュラムを展開し、それら自体も競争的環境の中で、プロセスとしての法曹教育を行う、ということが前提にあるとすれば、新司法試験の合格者発表に際して、その数や各種の率・特性を比較分析することにも相応の意味が認め得ると思います。3回目となったとはいえ、未だ不安定な状況の中における、また、なお不十分な情報に基づくコメントですが、それぞれが今後の方向性を見出していく上で幾分でも役に立てて戴ければ幸いです。

慶應義塾大学法科大学院修了生を全体としてみると、2008年の最終合格者数は165名で[74校中、200名の東京大学、196名の中央大学に次いで、3位]、最終合格率（合格者/受験者）は56.51%

[61.42%の一橋大学に次ぎ、2位]でした。合格者数が昨年から8名減ということは、ある意味では意外で、増加した他校を意識すると寂しい感じもしますが、修了者数や過去の合格者数等から決まる受験者プール（の特性の差）を考えれば、相応の結果ともいえると思います。合格率が、2006年の63.41%、2007年の63.83%に比較して、7%前後低下したことも残念ですが、全校平均が2006年の48.25

％、2007年の40.18％、そして、今年2008年の32.98％というように毎年8％前後の低下を示したことに照らせば、より少ない率の低下に止め得た可能性はあるにせよ、特に修了生諸君の問題とすべき事柄ではないでしょう。むしろ、昨年の夏以降、形としても少しでも疑われる余地のある指導は行わないという方針が採られ、少なからざる犠牲を払いつつ、厳しく実践されてきたという事情を踏まえれば、修了生諸君の努力を多として評価すべきであると思います。

修了生を、既修・未修の別、そして修了年度の別という観点から眺めるとき、直ちに気付くのは、未修の諸君の苦戦の様子です。未修1期生が受験した昨年の場合、未修者のみの最終合格率は60.29％（受験者68人中、合格者41名）でした。未修1・2期生が受験した今年は、37.04％（受験者81人中、合格者30名）です。しかし、それは、既修を含む全体最終合格率上位5校（いわゆる小規模校は含まれていませんが、指導しやすい定員100名規模が2校含まれています）を見る限りでは、突出して低い訳でもありません。現状は、制度設計や運用における見込み違いから生じた障害が集約されたものというべきであり、既により適合的な分野に展開した諸君もいますが、受け控えた諸君も含めて、修了生達には今暫しの忍耐と的確な状況分析に基づく一層の合理的努力とが求められているといえるでしょう。既修・未修合わせての短答式合格率（短答式合格者数／受験者数）が、昨年の87.45％を上回る88.01％に達していることを考えても、努力の仕方について改めて検討してみたいと思います。

既修の諸君全体についていえば、合格率は63.98％であり、今年他校のそれとの比較においても、昨年の既修1・2期諸君のそれ（65.02％）との比較においても、厳しい状況の中で良く健闘したといえると思います。しかしながら、各期毎の合格率を眺めると、70％を超えた3期の諸君との比較において、特に1・2期の諸君の状態が心配になります。1年あるいは2年間の努力を結実させられなかった原因は多様且つ個別的なものだと思いますが、改めて的確な戦略的状況分析を試み、努力の目標・仕方について再検討して戴きたいと思います。その際に一そして、これは3期の諸君についても言えることですが一 思い出して戴きたいことは、法的な物の見方・考え方の（少なくとも）基礎は慶應義塾大学法科大学院の授業で十分に擦り込まれているということです。下掲の表は、これまで3年間の修了者の累積GPA値と新司法試験最終合格率の関係を示したのですが、一貫して明確な相関

性が認められ、カリキュラム構成の適切性が証明されているものと考えています。修了生の諸君は全員、そのカリキュラムを履修し終えているのです。累積GPA値の差は、所定の分布比率に従って

GPA	2006年3月修了者			2007年3月修了者			2008年3月修了者		
	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率
4.00～3.50	5	5	100.0	9	9	100.0	10	10	100.0
3.49～3.25	16	16	100.0	18	19	94.7	28	31	90.3
3.24～3.00	28	34	82.4	36	41	87.8	31	37	83.8
2.99～2.75	31	42	73.8	30	41	73.2	31	49	63.3
2.74～2.50	12	29	41.4	40	57	70.2	26	56	46.4
2.49～2.25	12	40	30.0	11	39	28.2	12	34	35.3
2.24～1.50	0	0	0.0	3	26	11.5	2	19	10.5
	104	166	62.7	147	232	63.4	140	236	59.3

※ 合格者数は修了年に行われた試験毎のものであって、累積値ではない。行われる相対評価に基づいて算出される為に生じるに過ぎません。授業で擦り込まれた法的な物の見方・考え方の基礎に立ち帰って、努力の目標・仕方について考えてみて下さい。

最後に、この3年間の全最終合格者の平均年齢が、最高年齢（58又は59歳）と最低年齢（23歳又は24歳）に殆ど変動がない状態の下で、約29歳（28.87歳、29.20歳、28.98歳）であったことに既に暗示されているのかもしれませんが、慶應義塾大学法科大学院修了者では、既修・未修を問わず、いわゆる新卒組が意外な取り零しをしていることが少なくないような印象を受けています。法律学が一定の量の知識とその訓練による熟成とを必要とするものであるにせよ、慶應義塾大学法科大学院のカリキュラムがアカデミックな楽しみを許し過ぎるものであるにせよ、経験に乏しく単純に調整に失敗した、あるいは、氣迫負けしたに過ぎないにせよ、早期に原因を特定して、精神的に負けないようジ

ックリ立て直して下さい。

慶應義塾大学法科大学院として、就中、修了生・フォローアップ委員会として、修了生諸君が必要とするアフター・ケアのどこまでを提供することが許されるのか、現時点では、それ自体が解答することの難しい問題ですし、当然に許されるような事項であっても、それを実施する為の人的ならびに物的なリソースの調達やシステムの構築の難しさは、以前と何ら変わりません。上に述べたところからも明らかなように、まずは修了生それぞれが為すべき的確な現状分析に際しての助言を提供すること、その為の情報収集から、今年も着実に対応して行きたいと思えます。

II 2008年新司法試験に合格した修了生諸君へ

改めて、心からの御祝いを申し上げます。おめでとうございます。

修習生活への、そして、修習後の生活への期待と大いなる不安に胸膨らませていることと思えますが、慶應義塾大学法科大学院修了生としての自信をもって、しかし、力まず、焦らず、誠実に、互いに支え合いながら、歩み続けていって下さい。

また、慶應義塾大学法科大学院の今後の展開を注意深く見守り、必要に応じて率直な御意見を寄せて戴くと共に、特に後輩達への適確な助言・指導を中心とした御協力をお願いしたいと思います。今年も10月に入って直ぐに、諸君達と在校生との談話・意見交換の機会が設定される予定ですが、そのような形での協力への参加も宜しくお願ひします。

III 残念ながら不合格となった修了生諸君へ

落ち着きましょう。客観的に他の分野に展開せざるを得ない諸君、展開すべきか続行すべきか、あるいは一時待機すべきか、迷い戸惑っている諸君、不安・焦りを一人で抱え込んではいけません。蹲ってしまっても、パニックに駆られて走り回ってもいけません。気持を切り替えて、それぞれのプロセスを再び歩み始めて下さい。気持を切り替える為には、思いを一気に吐き出してしまうこと、話すことが有効です。何処から如何にして再び歩み始めるかという問題に具体的に決着をつける為にも、言葉にして伝え、検討して貰うことが有効です。最終的には諸君自身が歩く他ないことは良く分かっていると思えますが、その切っ掛けを得る為には、信頼できる相手に語り、アドバイスを受けて下さい。

今年も集まって、諸君と個別的に話し合う機会を設けることにしました。学習指導委員会とフォローアップ委員会の先生方、そして、同じ経験を通り抜けた修了生の先輩達が対応してくれます。下記の日時・場所に、必要な資料等を持参して集合して下さい。待っています。

日時：2008年10月20日（月）

17：30～

場所：南館2B24&25（集合）